

デーリー東北

2023年(令和5年)5月11日(木曜日) (13)

PCR検体採取ボックス 八戸平和病院に寄贈 八工大、コロナ5類後も支援

八戸



八戸平和病院の濱田和一郎院長（左）に、PCR検体採取ボックスを寄贈した八戸工業大の大野和弘事務部長

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」に移行した8日、今後の感染症検査に役立ててもらおうと、八戸工業大（坂本禎智学長）は同日、八戸平和病院（濱田和一郎院長）に「PCR検体採取ボックス Boxer Type 2」を贈った。同院への検体採取ボックス寄贈は7回目。

同大は新型コロナウイルス禍における医療支援として、同院や八戸市民病院など市内の医療機関に対して、検体採取ボックスの提供や、専用病棟の換気状況を確認する試験などを行ってきた。

検体採取ボックスは、内部から外にウイルスが漏れないよう陰圧化できる仕組みで、検査対象者が内部に入り、医療従事者が外側から手を入れて検体を採取する。

八戸平和病院介護老人保健施設「ナーシング・オリブ」で開かれた寄付贈呈式には、濱田院長のほか同大の大野和弘事務部長、工学部工学科の浅川拓克准教授らが出席。大野事務部長が濱田院長に目録を手渡した。濱田院長は「引き続き安心して検査ができる。これから力を貸していただき、感染症に強い病院にしたいければ」と感謝した。

（松橋広幸）

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。